

第 82 回紫友まち歩き

京都まち歩き

今回は、京都東山でも非公開の流響院と對龍山莊の見学がメイン。小雨の中で苔がしっとりとした最高の庭園見学でした。翌日は、前日の雨で見晴らしが良くなり、石清水八幡宮山頂から鳥羽伏見の戦いや宇治川をすっきりと遠望できました。後半二日は晴れの中で、熱中症を気にしながらのまち歩きとなりました。

日時： 2018 年 6 月 15 日(金)から 17 日（日）

集合時間：6 月 15 日 11 時 30 分

集合場所：京都駅 7 条口地下一階手荷物預かり前

参加者：19 名参加

案内人：今西光男 018

懇親会：15 日（金）町屋小町家

16 日（土）月桂冠の「月の蔵人」

懇親会参加者：15 日（金）14 名

16 日（土）12 名

歩いた歩数：武馬 025H の歩数計

15 日（金）13,500 歩

16 日（土）22,200 歩

17 日（日）15,000 歩

■まち歩き行程

15 日（金）：地下鉄京都駅出発蹴上駅着→流響院→南禅寺そばで休憩→對龍山莊→古川町の民泊町家にチェックイン→町屋小町家で懇親会

16 日（土）：京阪三条、男山ケーブル経由で石清水八幡宮→伏見桃山駅そばで各自昼食→御香宮神社→桃山御陵明治天皇陵→桓武天皇柏原陵→丹波橋を経て伏見界限に→金札宮→竜馬通り→寺田屋跡→月桂冠の「月の蔵人」居酒屋

17 日（日）：地下鉄で二条駅へ→神泉苑→六角獄舎跡、日本近代医学発祥地→武信稻荷神社→三条通り商店街で昼食・買い物→本能寺跡→京都芸術センターで流れ解散

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。京都駅七条口地下一階手荷物預かり前を求めて京都駅をさまよう人が多かった。無事集合し、荷物を町屋に送る。

6 月 15 日（金）

① 流響院：

蹴上駅から他の仲間（今回は紫友まち歩きの仲間以外も庭園見学に参加）との集合場所の琵琶湖疎水記念館に向かう。蹴上インクラインの三十石船を見て下っていく。



昼食をとっていない数名は、京都市国際交流館内のお弁当を買いに行き、急いで食べる。



貴重な機会なので、京都大学名誉教授の宗本順三先生と造園家の 11 代目小川治兵衛の子息が同行している。宗本先生が明治時代の好みに任せて作った数寄屋造りや庭園の概要を話してくれた。



途中、洛翠庭園の看板があり、この庭園は屋号「植治」の7代目・小川治兵衛作と書かれていた。白川沿いに流響院の門が見えてきた。建物の中は写真禁止なので、入口周辺の写真を撮る。



10人ずつの3グループに分かれ、庭と建物内の見学が始まる。真如苑の説明員が説明をしてくれる。今回同行の先生たちは補足説明をしてくれた。

写真は撮れていないので、説明や見学で記憶に残っている内容とウェブで調べた内容を列挙する。

①2500坪の広い敷地を活用。東山の山容と一体化（借景）し、琵琶湖疎水からの水を引き込み、滝、池や小川が作られている。流響院の名は、この清らかな流水の響きに由来しているという。隣の清流亭とは当初は一体だった。

作庭は近代造園の先覚者・小川治兵衛と長男安太郎。

②池には竹筏が浮かんでいる。アオサギが魚を捕りに来るので、魚が隠れるためのもの。琵琶湖からの疎水がそのまま池に流れているので、琵琶湖に住んでいる小さな魚も流れてきていた。踏み石もいろいろの形のものがある。中央の小石を5つくらいの小石で丸く囲み、花卉の姿をしている。この花卉踏んで進むのは面白い。

③建物見学の最初の部屋の襖の模様は蝙蝠桐で印象的だった。

④1920年頃、進駐軍に接收され、洋風に改修・改築される。鴨居を外しダンスホールに、茶室はシャワールームにと説明してくれた。

⑤2007年4月から「巨陶庵」期の資料を参考にして復元・修復工事が開始された。2009年11月完了し、「真澄寺別院 流響院」と命名され現在に至る。

⑥各部屋の襖絵も特徴がある。墨絵で池に映る山や草木の自然が輝くように見える部屋。油絵での蓮の花が一面に描かれ、隣の部屋には冬の蓮として葉ボタンが描かれていた。2009年に川村悦子（洋画家）が制作している。

うれしいことに最後に集合写真を庭で撮らせてくれた。

庭園や建物については、流響院のホームページの特設ページ「よみがえる匠の技と意匠」を参照してください。

② 對龍山莊：

細川別邸などの邸宅街を小雨の中、ゆっくりと散策していく。



對龍山莊見学は15時過ぎのため、しばらく南禅寺そばで休憩。一部の人は蕎麦屋を見つけ遅い

昼食をとる。



今度は 15 人の二つのグループに分かれ、庭園と建物内の見学を始める。ここは美術品以外は写真 OK だが、インターネットでの写真公開は NG とのこと。説明や見学で記憶に残っている内容やウェブで調べた内容を列挙する。

①現在は株式会社ニトリホールディングスの保養所・宿泊施設となっている。1800 坪の邸宅。近代庭園の名匠「植治」こと小川治兵衛の造園スタイルを確立した庭園と言われている。

②書院（對龍台）で管理人から説明を受けた後見学開始。ここからの庭園の眺めは素晴らしい。少し低いところに見える池には、色とりどりのコイが泳ぎ、奥には大滝があり、琵琶湖疎水の水を引き、落としている。

對龍台のすぐ真下。見えないところに小滝がしつらえてある。

池に少しかかる高い縁側からの眺めも素晴らしい。

谷崎潤一郎も逗留したという二階の丸窓から南の庭を見下ろす。

③美術品は各部屋に飾られているだけでなく、南北にある二つの蔵に納められている。

④聚遠亭の前には奥の庭からの小川の流れを受けた小さな池が形作られて、さらに北上して對龍台から見える大きな池に流れ込むようになっている。

⑤庭の見学では造園を担当している会社の若者が説明をしてくれた。

月の出た夜景もきれいだという。いろいろの松があちこちに植えられている。

庭園の方からの對龍台を眺めると、右の部分が

池の上になっているのがよくわかる。

白いハンゲショウがまとまって咲いているところもあった。

芝生がある。芝生と苔はどちらが強いかという説明があった。京都は湿気が強いので苔のほうが強いと説明してくれた。

四阿で集合写真。

この庭にも小川には蛇簾が置かれていた。

⑥ブラタモリでも放映された。岩石好きのタモリが見ていた岩石は對龍台の下にあった。

③ 古川町の民泊町家チェックイン：

男性は「沖のまちやど」へ、女性は「小町家」へと別れての宿泊。



④ 町屋小町家で懇親会：

地元の浴場に行く人もいる。



女性の宿場の小町家で懇親会を開催。「いづう」の一番弟子「いづ源」の京寿司をつまみに懇親を深める。



6月16日（土）

⑤石清水八幡宮：

午前9時過ぎ出発。京阪三条、男山ケーブル経由で石清水八幡宮に向かう。ケーブル沿線の紫陽花の青い色が印象的だった。



男山の竹はエジソンの白熱電球のフィラメントに利用された。竹林があちこちに見える。



門前名物の走井餅を人数分 15 個会計係がまと

めて購入。2000 円。

茅の輪くぐり前で集合写真を撮る。



御本社は国宝である。入口の南門から見ると少し左を向いている。町屋のそばのお風呂屋の絵がこの御本社だったという。ありがたい御本社なのだ。



ご神木の楠も素晴らしい。



男性左側若宮社、女性右側若宮殿社と書かれているが、慌てたのか、右側をお祈りしてしまう男性がいた。

この日は好天で空気も住んでいるので展望台からは、比叡山、鳥羽伏見の戦い跡、京都競馬場や三つの川（桂川、宇治川、木津川）が合流するのを眺めることができた。



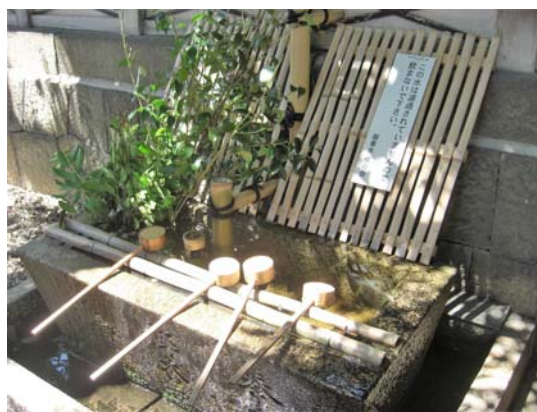
景色を楽しみながら走井餅を食べる。疲れているので、おいしかった。



⑥ 御香宮神社：

正午頃、伏見桃山駅に着く。各自分かれて昼食をとる。

平安時代に、この境内から「香」の良い水が湧き出たので、清和天皇より「御香宮」の名を賜ったという。



鳥羽伏見の戦いでは、官軍（薩摩藩）の本陣となる。

⑦ 桃山御陵明治天皇陵：

御香宮神社から暑い日の中を明治天皇陵に向かった歩いていく。



参道の日陰を探しながら玉砂利を踏みしめて進んでいく。途中伏見城の城壁の石垣跡の石が並んでいた。



へとへとになったころやっと着く。立派な陵墓だ。



高台から眺めていると地元の人がいろいろと説明してくれた。伏見自慢だという。京都自慢ではない。



この場所は秀吉が築いた伏見城本丸跡地で、大正元年、明治天皇を埋葬している。

⑧桓武天皇柏原陵：

ここから参道を途中まで戻り、桓武天皇柏原陵に向かう。桓武天皇は、奈良から京都へ都を移し平安京とした。それにあこがれてこの地に眠りたいと明治天皇が希望したとか。明治天皇陵に比べると少し小さい。



⑨金札宮：

丹波橋を経て疎水の水を引き、水量も多く直角に曲がっている堀が見える。



伏見界限に入る。珍しい名前の金札宮がある。予定にはないが時間もあるので見学開始。伏見で古い神社のひとつ。



天太玉命（白菊翁・白菊大明神）を祀る。観阿弥の謡曲「金札」や、ご神木クロガネモチの木でも知られる。

⑩寺田屋跡：

竜馬通りを通して、市が幕末焼失後に再建されたという寺田屋を見学する。市の見解を載せている新聞が飾られている。どう信じるかは各自の判断。



2 階には刀痕や弾痕の表示がここを見なさいと貼られている。



二つの寺田屋騒動（薩摩藩内の騒動と竜馬が囲まれ逃げた騒動）と竜馬暗殺の近江屋事件、新選組の長州・土佐藩襲撃の池田屋事件を混同している人もいる。

一部の人は入場せず、休憩や近くを見学する。

⑪月桂冠の「月の蔵人」居酒屋

月の蔵人に行き、開始を早めてもよいかと確認。4 時からで OK となり、懇親開始。涼しいのが一番だった。



座るのが苦手の人には、椅子があった。



2 時間ほど懇親後、集合写真を撮り、町屋に戻る。



お風呂に行く人もあり、2 次会は男性用の町屋の 1 階の部屋で 9 時ころから。女性も集まりしばし懇談。

6 月 17 日（日）

⑫神泉苑：

地下鉄で二条駅へ。二条城を右手に見ながら、暑い天気の中を進む。

どんなに日照りが続いても枯れることはないという伝説がある神泉苑の池の中島には空海（弘法大師）が勧請した善女龍王社がある。



恵方社は、「その年の恵方（陰陽道でその年の干支により定められるもっともよいとされる方角）」に向かって社殿を動かすことができる。



⑬六角獄舎跡、日本近代医学発祥地：

この地にあった六角牢獄で死んだ死人を、山脇東洋(1705～62)が宝暦 4(1754)年、日本で最初の解剖を行った。その解剖は、杉田玄白(1733～1817)の『解体新書』を遡ること 17 年前のことであったという。



平野国臣外数十名終焉趾でもある。

⑭武信稲荷神社：

江戸時代、武信稲荷神社の南には「六角獄舎」があった。



おりょうの父が投獄され、龍馬とおりょうが会おうとしていたがかなわず。追われて分かれた二人の再会は、榎の木肌に龍馬が削った「龍」の字が成し遂げたという。



嵐で折れ落ちたこの榎の枝をチェーンソーで掘った龍の形が不気味。



⑮三条通り商店街で昼食・買い物：

ここで自然解散となる。この時間に二条陣屋を見学している人もいた。

三条通りそばの喫茶店はお休み。女性はお土産を買っている。男性はカレーうどんがおいしいというお店に入る。



だし巻

き卵焼きを肴にビールを飲む。女性も加わり 1 時間ちょっと昼食を楽しむ。

⑯京都芸術センター：

本能寺跡の一つと言われる本能公園の前を進む。



明治に京都の町衆たちの力でできた明倫小学校が廃校になったあと、その跡地と校舎を利用し

て、アールスペースをつくった京都芸術センターの見学。ゆっくりと帰るまでのお茶を楽しむ。



2 時過ぎに解散。お疲れさまでした。

以上